

コミュニティスクール

～心を合わせて**地域の子供**を育む～



[道路清掃：小泉中]

さらなる学校と地域の
連携・協働に向けて



[太鼓の伝承：津谷中]

①知る（情報提供）

子供には、地域には...
どんないいところがある？
どんな課題がある？

④振り返る（評価）

持続可能な取組にするために
協働する楽しさ、喜び、手応えを
分かち合おう！



[地区民運動会：津谷中]

②考える（熟議）

こんな子供に育ててほしい！
こんな学校を創りたい！
目標・ビジョンの共有



[しめ縄づくり：小泉中]

③実現させる（協働）

学校、地域、保護者の役割分担
共有した目標に向かって、共に汗を流そう！
学校を核とした地域ネットワークでつながろう！

「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」とは

学校と地域がパートナーとして連携・協働するために、学校は「地域に開かれた学校」から一歩踏み出し、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し、地域と一体となって子供たちを育てる「地域とともにある学校」へと転換していく必要があります。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みです。この制度を導入することにより、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことができます。

コミュニティ・スクールとは、「**学校運営協議会**」を設置している学校のことを指します。

▶▶▶ **「学校運営協議会制度」**は、次の法律に基づく制度で、主に3つの機能があります。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5】 H16制定

教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を置く学校を指定

- 校長が作成する学校運営の **基本方針の承認** をすること（必須）
- 学校運営について、教育委員会又は校長に **意見を述べる** ことができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会に **意見を述べる** ことができること

学校運営の「**基本方針の承認**」を行うなどの具体的な権限を有していることから、地域住民や保護者が学校運営に対する**当事者意識**を分かち合い、ともに行動する体制を構築できます。学校運営協議会は、学校の良きパートナーになるものであり、校長先生が描く学校のビジョンを地域住民や保護者と共有し、校長先生のリーダーシップのもとに共に汗をかき、そのビジョンの実現を目指そうとするための仕組みです。

※学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。



子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、

社会総掛かりでの教育の実現 が不可欠です。

地域とともにある学校運営に欠かせない3つの機能

地域とともにある学校の運営に備えるべき機能として「熟議」、「協働」、「マネジメント」の三つがあります。学校運営協議会は、学校と地域がビジョンや課題、情報等を共有し、熟議し、意思を形成する場であり、学校と地域が相互に連携・協働していくための基盤となります。

熟議

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら課題解決を目指す対話のことをいいます。活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができます。

具体的には・・・

- ① 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、「学校や地域の課題」を共有し、
 - ② そのことについて学習・「熟慮」し、「議論」をすることにより、
 - ③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
 - ④ それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
 - ⑤ 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる
- というプロセスのことを言います。



地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有します

【コミュニティ・スクールの学校で行われた「熟議」のテーマ】

子供たちがどう育てほしいか	学校と地域と一緒にやれることは	「いじめ」を撲滅するには
子供たちの「学力」を向上させるには	地域の力をどう子供たちの教育に生かすか	下校時の安全をどう確保するか
あいさつ日本一の町をめざすために	学校と地域の合同運動会について	携帯電話の取扱いについて
郷土学習で何を子供たちに伝えるか	統合する学校の子供たちにできることは何か	地域に貢献できることは何か

【熟議：展開例（約60分）】

※別冊「ワークショップのすすめ」に詳しい展開例を掲載しています。

①オリエンテーション	5	なぜ、熟議開催に至ったかを改めて確認する。
②テーマに関わる資料の共有	10	テーマについての知識・背景を共有する。
③熟議（前半）スタート	20	自己紹介→意見（思い）をたくさん出す（付箋を利用）。
④熟議（後半）スタート	15	前半で出た意見について、方向性をもって話し合う。
⑤グループごとの発表	5	各グループ1分程度でまとめ、全体で発表する。
⑥終わりの挨拶	5	今後の話し合いの場をどこでもつかを提案する。

「熟議」で提案されたプランを、課題解決に向けた具体的実践につなげていく

協働

「熟議」の実施を通して学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「参画」し、共通の目標に向けて「協働」して活動していくことが大切です。



マネジメント

その中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと、目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営を管理することにとどまらず、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく力が必要です。



コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

子供にとって の魅力

- 子供たちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

教職員にとって の魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できます。

保護者にとって の魅力

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子供たちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域の人々に とっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。
- 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等の構築ができます。

コミュニティ・スクールの成果は？

成果

コミュニティ・スクールに指定された学校では、地域連携に関する成果のみならず、教職員の意識改革や、学力向上・生徒指導の課題解決においても、成果を認識しています。

